

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和7年5月15日（木）15時00分～15時35分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

英語教育の充実について

4 主な発言要旨

- ◇ 今の時代は仕事で海外と英語でやり取りする場合もあり、読み書きだけでなく、コミュニケーションを取る生きた英語力が必要と考える。（和田委員）
- ◇ 英語検定の受検に当たり、近年は学校を会場としていないため、受検する上での敷居が高く受検者が減少している傾向にあるが、学校に代わり地域を会場とするなど、子どもたちの受検機会の提供について考えていかなければならない。（工藤委員、和田委員）
- ◇ 受検勉強としての英語教育と、コミュニケーションとしての英語教育は分けて考える必要がある。英語を学ぶ上で、「楽しさ」が伴わなければ学ぶ意欲が湧いてこないのではないか。今はアプリによりゲーム感覚で英語を学ぶこともできるため、これらのツールを活用していくことが効果的ではないか。（小関委員、丹治委員）
- ◇ C E F R（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）のA1（英検3級相当）以上の中学校3年生の割合及びA2（英検準2級相当）以上の高校3年生の割合が年々上昇していることは、本県の英語教育の効果の表れと思われる。（手塚委員）
- ◇ 英語を話せるようになるには、英語を活用する環境に入ることが最も効果的であると思われるため、留学、英語検定の受検、イベントなどにより、英語を活用するきっかけを作っていくことが重要と考える。（手塚委員）
- ◇ 日本の英語教育はリーディング、ライティング、ヒアリングが先で、最後にスピーキングが来ているように思う。間違えることを恐れずに、積極的に英語を話すことが大切である。（小関委員、工藤委員）
- ◇ 教員は毎日の業務が忙しく、自分自身の自己研鑽に時間を割くことができていないのではないか。英語教育の指導に当たる教員の質が子どもたちの英語教育に影響を与えられるため、英語教員の質の確保に向けた何らかの取組みを考えていかなければならない。（工藤委員）
- ◇ コミュニケーションとしての英語教育を進め、英語は楽しい、役に立つという意識が芽生えたと、その後の単語や文法の学びにもつながっていくのではないか。（工藤委員）